

地域住民の防災に関する意識調査

(国分寺市東元町 2015 年)

東京経済大学コミュニケーション学部 社会調査グループ

以下に報告する内容は、山田晴通が授業を担当した 2015 年度の「社会調査実習」において、実習として実施された社会調査の成果です。この科目の当年度の履修者は 12 名でしたが、様々なやむを得ない理由により途中で脱落した者が 4 名出ました。残った 8 名で調査を実施し、最後まで残った 8 名については全員が単位を取得しました。

今年度も、年間スケジュールは、全体的に当初シラバスに提示した計画よりも遅れて進行し、最終的な報告書の完成は翌年度はじめにずれ込みましたが、受講者諸君の自主的な取り組みでここにご報告する形にまとまり、成果の公表に漕ぎ着けることができました。

報告書の作成に至る実習の各段階では、山田が適宜必要な助言を与えましたが、報告書の構成・文章の執筆に際しては、最終的に残った受講者 8 名の自主的な努力が最大限尊重されています。本報告書の文責は、受講者 8 名と山田が等しく分かち持つものです。

この調査は、事前の現地調査や質問紙調査にご協力をいただいた皆様をはじめ、国分寺市の関係地域の皆様に、様々なご支援を頂戴して実現したものです。ご支援、ご協力をいただきましたすべての皆様に、感謝を申し上げる次第です。誠にありがとうございました。

この調査に関するお問い合わせは、東京経済大学山田晴通研究室
(Tel/Fax 042-328-7923, yamada@tku.ac.jp) までお寄せください。

2015 年度東京経済大学コミュニケーション学部社会調査グループ：赤石莉沙子，秋葉成美，加藤唯，大塚麻結，杉野美幸，田澤直子，星野洸太，細田優美子，(指導教員) 山田晴通

目次

1. はじめに
2. 調査概要
 - 2-1 調査テーマ選定と調査対象
 - 2-2 仮説の検討

地域住民の防災に関する意識調査

- 2-3 調査項目の選定と質問票の作成
- 2-4 調査方法
- 3. 本調査結果
 - 3-1 質問票回収状況と問題点
 - 3-2 集計方法
 - 3-3 仮説の検証
- 4. 結論
- 5. 調査における課題・問題点（おわりに）
- 6. 付録
 - 6-1 本調査質問票原本
 - 6-2 単純集計結果
 - 6-3 自由記述回答まとめ

1. はじめに

2011年3月11日に東日本大震災が発生して以降、「防災」は非常時の人々を支えるものとしてあらゆる方面から関心が高まり、テレビやインターネットを通じて自然災害への対策や防災の準備が呼びかけられている様子を目にすることも多くなっています。各地域行政単位での取り組みについても、大震災を機に防災活動の方針や施策を改める契機ともなりました。私たちが通う東京経済大学の所在地でもある国分寺市の西方には「立川断層帯」があり、実際に首都直下地震が起きた際に被害が甚大化されることが懸念されており、市が作成した「国分寺市地域防災計画」も立川断層帯地震を想定して、国の防災基本計画に基づいて作成されています。

社会調査のテーマとして「防災」を掲げ、その準備段階として、まず国分寺市と隣接する小平市、小金井市、府中市、国立市、立川市の地域防災計画なども参照して、情報収集を行いました。それらを踏まえて議論を行った結果、住民の多くは市が行っている取り組みを知らないのではないかという疑問が生まれ、災害時のライフラインの確保や情報伝達手段の設置などの取り組みが市の主導で行われている一方で、それらの取り組みがその地域に住む人々に知られていないことが事実ならば、本調査の結果から得られるものは国分寺市の防災計画全体の改善点を示唆し得る意義のあるものになる、という結論に至り、私たちは「社会調査実習」の一環として、地域住民の防災意識と市が行っている防災サービス等の認知を問う意識調査を行いました。本調査は、国分寺市の防災計画に資することを目標に、調査対象地域を国分寺市南東に位置する「東元町1丁目」に限定して町内の全戸に対し質問票の配布・回収の協力を仰ぐ全数調査の形式に則って実施しました。

年間を通して行われた実習は予想以上に大変なものでした。諸事情により夏季休業明けに実習メンバーが減ったことで当初の計画を大幅に変更せざるを得ない状況となり、常にスケジュールに追われる一年間でした。様々な課題がありましたが、それでも無事に本報告書を作成し、発表することができたのは、現地調査にご協力いただいた東元町1丁目地域の皆様、またこのような実践的な調査を行う機会を与えてくださり、支えてくださった大学関係者の皆様のおかげだと実感しております。皆様に深くお礼申し上げます。

《参考資料》

国分寺市役所 防災・防犯 (2016年)

<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/kurashi/bousai/bousai/index.html>

2. 調査概要

2-1 調査テーマの選定と調査対象

本調査は「地域住民の防災に関する意識調査」をテーマとしました。2011年に東日本大震災が発生して以降、各地で防災意識の高まりが見られるようになりましたが、実際に行われている市や地域の取り組みや認知度は様々で、震災から数年が経った現在、防災に対する住民の防災意識はどうなっているのか、そして地域住民同士の繋がりはどうなのかに私たちは関心を持ちました。そこで、本調査では国分寺市が実施する防災への取り組み、および各家庭で行っている防災対策の実態を調査し、市や自治体が取り組む防災活動の認知度と地域住民の防災意識を明らかにすることを目指しました。

調査テーマである「地域住民の防災に関する意識調査」を全数調査としての実施を考えた場合、国分寺市のどの地区に住む住民を対象とするかが、私たちの間で議論となりました。今回、東元町1丁目を調査対象地区に定めた理由としては、例年の調査実績などを参考に回収率20パーセント前後と仮定した際に、400部以上のサンプル回収が見込まれる2000部配布が可能である地域であり、そして、一戸建てと集合住宅の比率が同等である地域であったからです。地区の選定には「町内別人口」(国分寺市ホームページ)を使用しました。

調査テーマを「防災」と決定した際には複数地区に調査票を配布し地区同士の比較を行うことを視野にいれていましたが、本授業の受講人数が途中で減ったことで質問票配布への負担が大きくなったことを理由に、1地区の地域住民への全数調査に切り替えました。

2-2 仮説の検討

防災に関する意識調査を実施するにあたり以下の2つの仮説を設定し、これらを「大仮説(理論仮説)」と呼び作業を進めました。

地域住民の防災に関する意識調査

- ①居住年数が長い世帯ほど防災意識が高い
- ②防災意識が高い世帯ほど地域とのつながりが強い

続いて、これらの大仮説を調査するために実際に質問票を通して検証する仮説を「小仮説（作業仮説）」と称して作業を進めました。

1つ目の大仮説「居住年数が長い世帯ほど防災意識が高い」を調査するために以下の小仮説を設定しました。

- ・居住年数が長い世帯ほど備蓄をしている。
- ・居住年数が長い世帯ほど家庭内で防災に関する話し合いを行っている。
- ・居住年数が長い世帯ほど市の防災サービスを知っている。
- ・居住年数が長い世帯ほど、防災まちづくり推進地区という取り組みを知っている。

居住年数が長くなるほど、国分寺市や地域が行う防災活動への参加や発信する情報サービスに触れる機会が多く、また、それらにより備蓄や家庭内で避難所の確認などの話し合いをするきっかけとなるため防災意識が高いのではないかと考えたわけです。

2つ目の大仮説「地域とのつながりが強い世帯ほど防災意識が高い」を調査するために設定した小仮説は以下の通りです。

- ・自治会に所属している世帯は、そうでない世帯より備蓄をしている
- ・自治体に所属している世帯は、そうでない世帯より家庭内で防災に関する話し合いをしている
- ・自治体に所属している世帯は、そうでない世帯より防災サービスを知っている

自治会（町内会）に所属することで、防災活動および情報サービスを共有するひとつの場となっているのではないかと考えました。また、自治会に所属する世帯間の関係を築いている世帯ほど防災意識（災害発生時に備えることも含む）が高いのではないかと考えました。

2-3 調査項目の選定と質問票の作成

以上の仮説を検証するため、大きく6つの項目に分けて調査のための質問票を作成することとしました。項目の内訳は、①回答者やその家族に関するフェイス項目、②防災に対する意識を問う項目、③市が実施している防災まちづくり推進地区に関する項目、④その地域に住む人同士のつながりや地域活動の実態を問う項目、⑤災害や防災の情報を入手するために利用するメディアを問う項目、⑥自由記述欄、の6つです。

①フェイス項目

- ・性別, 年代, 家族構成, 居住年数, 職業

②防災意識

- ・備蓄の有無
- ・備蓄の種類
- ・防災訓練への参加の有無
- ・防災サービスの認知
- ・災害時の連絡方法を確認しているか (それはどんな方法か)
- ・家具転倒防止対策の有無

③防災まちづくり推進地区

- ・推進地区の認知
- ・推進地区の活動内容の認知

④地域のつながり

- ・地域活動への参加の有無
- ・町内会, 自治会への参加の有無
- ・町内会, 自治会に望むこと
- ・つながりが強いと思うかのどうかの自己意識
- ・互いに相談したり, 生活面で協力し合っている人の有無
- ・挨拶, 会話の頻度

⑤メディア

- ・防災情報を収集するのに使用するメディア
- ・もっとも信頼しているメディア
- ・もっとも多く見聞きするメディア

⑥その他

- ・市の防災活動について (自由記述)

こうした項目を質問の文言に落とし込んだ上で, A3判用紙両面 (A4判用紙4ページ相当) に収めるために, 質問文の整理や圧縮を行いました。この作業は夏休みを挟んで質問票の印刷～配布開始の直前である, 11月中旬まで続けられました。

最終的な質問票は, 以下の内容の質問を盛り込みました。質問内容の下の「SQ. (Sub-Question)」はその質問の補問となります。(付録参照)

①フェイス項目

地域住民の防災に関する意識調査

- ・性別，回答者の年代，居住形態，一緒に住んでいる家族の人数
- ・現在の住まいに何年住んでいるか，回答者の職業
- ②防災意識・対策・サービスの認知
 - ・家具の転倒防止対策実施の有無
 - ・市が主催する防災訓練への参加有無
 - SQ：防災訓練に参加した理由
 - ・今現在の備蓄状況（飲料水，非常食，衣類等，医薬品，懐中電灯等，日用小物）
 - ・家庭内での話し合いの有無（避難所，災害時の連絡手段）
 - SQ：災害時の連絡手段の具体例
 - ・「防災無線ダイヤルイン」というサービスを知っているか
 - ・「緊急速報メール」というサービスを知っているか
 - ・「安心安全メール」というサービスを知っているか
 - ・「Twitter」を利用して防災情報を発信していることを知っているか
 - ・国分寺市の「防災ハザードマップ」を持っているか
 - SQ：防災ハザードマップを使った話し合いをしているか
- ③防災まちづくり推進地区の認知
 - ・「防災まちづくり推進地区」という取り組みがあることを知っているか
 - SQ：住んでいる地区が「防災まちづくり推進地区」に指定されているか知っているか
 - SQ：「防災まちづくり推進地区」で行われる活動を知っているか
- ④地域のつながり
 - ・自治会，町内会に加入しているか
 - SQ：自治会，町内会に加入している理由
 - SQ：自治会，町内会に加入していない理由
 - ・地域活動への参加
 - ・近隣の人との関係
- ⑤その他
 - ・市の防災活動について（自由記述）

2-4 調査方法

- ・調査期間

本調査である質問票調査は，2015年12月の中旬に対象地域へのポスティングを行い，12月中旬には回収し集計を行いました。

・質問票の配布, 回収方法

質問票の配布方法は、国分寺市東元町1丁目の全戸に対して調査員が質問票をポストインで配布する形をとりました。本調査は2015年11月30日～12月2日の三日間に調査票を配布し、郵送によって12月15日までに返送されたものを集計対象としました。調査対象者については、同居されているご家族の中に満18歳以上の方が2人以上いる場合は、原則として「次の誕生日」が最初に来る方に答えていただきました。例えば、4月生まれの方と11月生まれの方がおいでの場合は、4月生まれの方に答えていただいています。ただし、その方がお答えにならない場合はどなたがお答えいただいても良いという条件を設定しました。

・質問票配布時の留意点

質問票の配布は東元町1丁目内の全戸に対して行いましたが、その際に以下のようなルールを定めて配布を行いました。

- ①質問票の配布は番地単位で行い、配布作業は調査員が二人一組で行いました。
- ②東元町1丁目内の総戸数を明確にするため、配布戸数と配布不可数をカウントする
- ③2つ表札があってもポストが1つしかない場合は、同世帯の可能性が高いので1つ配付をすることとしました
- ④表札が2つありポストも2つある場合は、2世帯とみなし各々に1つ配付をすることとしました
- ⑤オートロック式の集合住宅の場合は、入り口がロックされておらず、配布が可能であれば配布を行ないました
- ⑥人が住んでいるかどうか判断がつかない場合は、ポストに封がされていなければ配付を行いました。
- ⑦空き家であることが確認できる建物の場合は配布せず、別に集計しました。
- ⑧事務所・店舗・会社には配付を行わないこととしました。
 - ※¹ 事務所名・店名・企業名の書かれた看板があること、または誰が見ても明らかに商品売買をしていることを判断基準としました。
 - ※² 上層が集合住宅になっている場合、住宅の部分には配付を行いました。
 - ※³ 事務所・店舗・会社の名前に加え、個人名がある場合は配付を行いました。
- ⑨もしもポストを確認して（何日も放置されている場合はチラシが大量に入っている等）人が本当に住んでいるかどうか分からない場合は、ポストに封がされていなければ配付をすることを定めました。
- ⑩もしもポストにチラシや新聞紙が溜まっていて、物理的に調査票を投函（配布）することが不可能な場合は配布をしませんでした。

地域住民の防災に関する意識調査

※配布できるスペースが確認できる場合、調査票が折れないことに留意して配布しました。

- ⑪オートロック式の集合住宅ではポストはロビーにあるので、入口がロックされていない場合は、質問票をポストに投函します。入口がロックされている場合は、中に入ることが不可能なので配布を行わないことにしました。
- ⑫集合ポストとドアポストがある場合は集合ポストに投函します。ドアポストへの投函は質問票が折れてしまうことが考えられるので、ドアポストへの投函は極力控えるようにしました。ただし人が住んでいることが予想できるにも関わらず、何らかの理由で集合ポストに投函できない場合にはドアポストに投函することとしました。
- ⑬ドアポストしかない場合はドアポストに投函しました。

3. 本調査結果

3-1 質問票回収状況と問題点

本調査の配布票数と回収票数は以下の通りでした。質問票配布時に空き家や事業所等をカウントした結果、東元町1丁目の総戸数は空き家、事業所等を含め2162戸（2015年12月時点）となりました。総数1937票を配布し、返信用封筒を使用した郵送によって370票を回収しました。

	総戸数	配布数	空き家	事業所 ^{*1}	配布不可 ^{*2}	回収数
合計	2162	1937	81	37	107	370

^{*1} 事業所兼自宅の場合、事業所用のポストが設置されていれば事業所数にカウント。

^{*2} 物理的に配布不可な場合や、ポストが敷地内にあり配布できなかった戸数。

上記の表にまとめた通りですが、東元町1丁目の総戸数2162戸に対し、配布は1937戸に実施することができ、総戸数の約89%に配布することができました。回収率も19.1%とポスティング調査の標準的な水準の範囲内に収まり、配布と回収の結果は満足のいくものとなりました。

調査の問題点は二点あり、一つは質問票配布のルール決りを徹底する一方で地域住民への説明が不足していたこと。もう一つは質問票作成時に目安となる参考資料の情報が古く、結果的に質問票の冊数が不足しかけたことです。

まず前者は、調査票配布時に地域住民の方から注意を受けたことから問題が発覚しました。具体的には、「郵便受けが敷地内にある住宅に質問票を配布する際に、投函しようと門を開け敷地に入ったところで家主の方に注意を受けた。」というものです。調査実施前に東元町

1丁目の現地調査を行った際に「自治会長等を通じて地域住民への説明をするのかしないのか」が議題として上がりましたが、他の作業や日程の関係で結論を出さずに配布を敢行した結果、問題が発生した際の対応がとれない状況となりました。また質問票配布時のルールを決める際に、このような事態を想定せず過去の社会調査で起きたトラブル等に調査員各自が目を通していなかったことも問題として挙げられます。

後者の問題は、調査地区決定時（10月時点）に地域のポスティング会社のHPに掲載されていた東元町1丁目の世帯数をもとに全数調査に必要な質問票数を決定したことによって発生した問題です。質問票の必要数を決定する段階で手元にある参考資料しか利用せず、その時点の正確な世帯数を確認しなかったため、質問票を配布時に冊数が足りず、予備の質問票や印刷工程で失敗したものを再利用するなどしてその場をしのぐ形で配布を終えました。また、調査に関するデータのほとんどを調査員一人で作成・管理しており、それらのデータをクラウド上で共有していなかったため、資料の再読性に難があったことも否定できません。

以上の問題を振り返り、反省すべき課題として明確になったことは、「調査を実施する前に対象地区に住む人々に対して説明を行い、調査に理解を持ってもらった上で調査への協力を仰ぐこと。」「質問票等に関するデータを共有し、調査員各員が現状の把握と振り返りを随時行うこと。」の二点となります。今回の調査で起きた問題は何とかその場で対応できるものでしたが、リスク管理や意識の共有が不十分だったことが招いた結果であると言えます。

3-2 集計方法

①集計方法

郵送していただいた質問票を順次回収し、各質問のコーディングを行った上で、そのデータをExcelを利用して集計しました。

②分析方法

調査対象者を東元町1丁目に住んでいる方全員とし、ニアレストパス方式を用いてその世帯で調査対象となる方に回答していただきました。最終的な回答者（世帯）は370人であり、男性172人（46.5%）、女性192人（51.9%）、未回答6人（1.6%）でした。年齢比は19歳以下が5人（1.4%）、20代が38人（10.3%）、30代が48人（13.0%）、40代が37人（10.0%）、50代が56人（15.1%）、60代が65人（17.6%）、70代が71人（19.2%）、80代以上が49人（13.2%）、未回答が1人（0.2%）でした。

3-3 仮説の検証

仮説1. 「防災意識が高い世帯ほど地域とのつながりが強い」

1-1 自治会に加入している世帯ほど災害時の連絡手段の確認をしている。

1-2 自治会に加入している世帯ほど備蓄を行っている。

仮説 2. 「居住年数が長い世帯ほど防災意識が高い」

- 2-1 居住年数が長い世帯ほど備蓄をしている。
- 2-2 居住年数が長い世帯ほど市の防災サービスを利用している。

〈棄却された仮説〉

以下の仮説は分析の結果、有意ではないと判断され、棄却しました。

- ・ 居住年数が長い世帯ほど“防災まちづくり推進地区”という取り組みを知っている
- ・ 居住年数が長いほど市の防災サービスを知っている
- ・ 自治会に所属している世帯ほど防災サービスを知っている
- ・ 地域活動への参加が高い世帯ほど家庭内で話し合いをしている
- ・ 地域活動への参加が高い世帯ほど備蓄が多い
- ・ 地域活動への参加が高い世帯ほど転倒防止対策をしている
- ・ 地域活動への参加が高い世帯ほど防災サービスを知っている
- ・ 近隣の人とのかかわりが深い世帯ほど防災サービスを知っている

〈実証された仮説〉

仮説 1. 「防災意識が高い世帯ほど地域とのつながりが強い」

- 1-1 自治会に加入している世帯ほど災害時の連絡手段の確認をしている。

表 1 自治会加入有無と連絡手段のクロス表

		連絡手段			合計	
		確認している	話し合いはしていないが把握している	確認していない		
自治会加入 有無	加入している	度数	55	50	65	170
		自治会加入 有無の%	32.4%	29.4%	38.2%	100.0%
	加入していない わからない	度数	15	17	67	99
		自治会加入 有無の%	15.2%	17.2%	67.7%	100.0%
合計		度数	70	67	132	269
		自治会加入 有無の%	26.0%	24.9%	49.1%	100.0%

有意確率 0.000 が示すように、自治会の加入有無と連絡手段の確認をしているかどうかの

問いとは、1%水準で有意な関連性を示している。(x²=21.92, df=2, p<0.01)

表から具体的にその関連性を示すと、自治会に加入している人は自治会に加入していない人よりも連絡手段の確認をしているといった数値が32.4%と17ポイントほど高く、また自治会に加入していない人は自治会に加入している人よりも連絡手段の確認をしていないといった数値が67.7%と30ポイントほど高い。つまり、連絡手段の確認は、自治会の加入有無により差があることがわかる。

1-2 自治会に加入している世帯ほど備蓄を行っている。

表2 自治会加入有無と非常食のクロス表

			非常食			合計
			人数分備蓄している	人数分はないが備蓄している	備えていない	
自治会加入有無	加入している	度数	78	94	67	239
		自治会加入有無の%	32.6%	39.3%	28.0%	100.0%
	加入していない わからない	度数	25	21	76	122
		自治会加入有無の%	20.5%	17.2%	62.3%	100.0%
合計	度数	103	115	143	361	
	自治会加入有無の%	28.5%	31.9%	39.6%	100.0%	

有意確率 0.000 が示すように、自治会に加入しているかという問いと非常食を備蓄しているかという問いとは、1%水準で有意な関連性を示している。(x²=40.51, df=2, p<0.01)

表から具体的にその関連性を示すと、自治会に加入している世帯は加入していない世帯よりも人数分備蓄しているという数値が32.6%と12ポイントほど高く、また自治会に加入していない世帯は加入している世帯よりも備えていないという数値が62.3%と34ポイントほど高い。つまり、非常食の備蓄は、自治会の加入有無により差があることがわかる。

仮説 2. 「居住年数が長い世帯ほど防災意識が高い」

2-1-1 居住年数が長い世帯ほど備蓄をしている。

表 3 居住年数と防災備蓄（飲料水）のクロス表

居住年数		飲料水			合計
		人数分備蓄している	人数分はないが備蓄している	備えていないわからない	
5年未満	度数	23	21	53	97
	居住年数の%	23.7%	21.6%	54.6%	100.0%
5年以上 10年未満	度数	11	14	14	39
	居住年数の%	28.2%	35.9%	35.9%	100.0%
10年以上 20年未満	度数	24	20	19	63
	居住年数の%	38.1%	31.7%	30.2%	100.0%
20年以上 30年未満	度数	22	13	9	44
	居住年数の%	50.0%	29.5%	20.5%	100.0%
30年以上 40年未満	度数	24	17	8	49
	居住年数の%	49.0%	34.7%	16.3%	100.0%
40年以上	度数	30	22	19	71
	居住年数の%	42.3%	31.0%	26.8%	100.0%
合計	度数	134	107	122	363
	居住年数の%	36.9%	29.5%	33.6%	100.0%

有意確率 0.000 が示すように、居住年数と飲料水を備蓄しているかどうかという問いとは、1% 水準で有意な関連性を示している。 $(\chi^2 = 33.76, df = 2, p < 0.01)$

表 1 から具体的にその関連性を示すと、居住年数が 40 年以上の人は 5 年未満の人よりも人数分備蓄しているという数値が 42.3% と 20 ポイントほど高く、また居住年数が 5 年未満の人は 40 年以上の人よりも備蓄していないといった数値が 54.6% と 30 ポイントほど高い。つまり、飲料水の備蓄の有無は、居住年数により統計的に有意に差があることが分かる。

2-1-2 居住年数が長い世帯ほど備蓄をしている。

表 4 居住年数と防災備蓄（医薬品）のクロス表

		医薬品			合計	
		人数分備蓄している	人数分はないが備蓄している	備えていないわからない		
居住年数	5年未満	度数	18	19	59	96
		居住年数の%	18.8%	19.8%	61.5%	100.0%
5年以上 10年未満	10年未満	度数	9	12	17	38
		居住年数の%	23.7%	31.6%	44.7%	100.0%
10年以上 20年未満	20年未満	度数	20	18	23	61
		居住年数の%	32.8%	29.5%	37.7%	100.0%
20年以上 30年未満	30年未満	度数	13	13	18	44
		居住年数の%	29.5%	29.5%	40.9%	100.0%
30年以上 40年未満	40年未満	度数	18	22	9	49
		居住年数の%	36.7%	44.9%	18.4%	100.0%
40年以上	40年以上	度数	25	15	28	68
		居住年数の%	36.8%	22.1%	41.2%	100.0%
合計		度数	103	99	154	356
		居住年数の%	28.9%	27.8%	43.3%	100.0%

有意確率 0.000 が示すように、居住年数と医薬品を備蓄しているかどうかという問いとは、1% 水準で有意な関連性を示している。 $(\chi^2 = 30.01, df = 10, p < 0.01)$

表 4 から具体的にその関連性を示すと、居住年数が 40 年以上の人は 5 年未満の人よりも人数分備蓄しているという数値が 36.8% と 20 ポイントほど高く、また居住年数が 5 年未満の人は 40 年以上の人よりも備蓄していないといった数値が 61.5% と 20 ポイントほど高い。つまり、医薬品の備蓄の有無は、居住年数により統計的に有意に差があることが分かる。

地域住民の防災に関する意識調査

2-2 居住年数が長い世帯ほど市の防災サービスを利用している。

表5 居住年数とハザードマップのクロス表

		ハザードマップ			合計	
		持っている	持っていない	わからない		
居住年数	5年未満	度数	42	27	27	96
		居住年数の%	43.8%	28.1%	28.1%	100.0%
	5年以上 10年未満	度数	20	10	9	39
		居住年数の%	51.3%	25.6%	23.1%	100.0%
	10年以上 20年未満	度数	37	13	13	63
		居住年数の%	58.7%	20.6%	20.6%	100.0%
	20年以上 30年未満	度数	23	11	10	44
		居住年数の%	52.3%	25.0%	22.7%	100.0%
	30年以上 40年未満	度数	28	9	11	48
		居住年数の%	58.3%	18.8%	22.9%	100.0%
	40年以上	度数	38	12	24	74
		居住年数の%	51.4%	16.2%	32.4%	100.0%
合計		度数	188	82	94	364
		居住年数の%	51.6%	22.5%	25.8%	100.0%

表11から、有意確率0.622が示すように、居住年数とハザードマップを利用しているかどうかの間には統計的に有意な確率は見られなかった。単純集計の結果を比べると最も多かったのが持っている51.6%、次がわからない25.8%、持っていないが22.5%と続いた。

2-3 居住年数が長い世帯ほど“防災まちづくり推進地区”という取り組みを知っている。

表6 居住年数と防災まちづくり推進地区の認知のクロス表

		防災まちづくり推進地区			
			知っている	知らない	合計
居住年数	5年未満	度数	2	93	95
		居住年数の%	2.1%	97.9%	100.0%
	5年以上10年未満	度数	3	35	38
		居住年数の%	7.9%	92.1%	100.0%
	10年以上20年未満	度数	8	55	63
		居住年数の%	12.7%	87.3%	100.0%
	20年以上30年未満	度数	5	38	43
		居住年数の%	11.6%	88.4%	100.0%
	30年以上40年未満	度数	8	39	47
		居住年数の%	17.0%	83.0%	100.0%
	40年以上	度数	9	63	72
		居住年数の%	12.5%	87.5%	100.0%
合計		度数	35	323	358
		居住年数の%	9.8%	90.2%	100.0%

表13から、有意確率0.074が示すように、居住年数と“防災まちづくり推進地区”という取り組みを知っているどうかの間には統計的に有意な確率は見られなかった。単純集計の結果を比べると最も多かったのが知らないが90.2%、次が知っている9.8%と続いた。

4. 結論

本論文では「地域住民の防災に関する意識」をテーマに分析してきました。

調査結果の分析から得られた知見として、まず1点目に、居住年数が長い世帯ほど一定量の備蓄をしているという分析結果が得られました。「居住年数の長さ＝年齢」とすると、若い世帯より高齢の世帯のほうが常日頃から防災に対する意識が高いのではないかという仮説を立証するに足る結果であると考えられます。飲料水と医薬品の備蓄が有意となった理由はいくつか挙げられますが、主なものとして、飲料水は備蓄が手軽で定期的に交換する必要がなく長期の保存ができること、医薬品においては日常的に服用していることや医師からの助言などが備蓄の量に大きな影響を与えていると考えられます。ですが、表1と表2以外の備

地域住民の防災に関する意識調査

蓄、例えば防寒用品や非常食に関しては有意な結果となりませんでした。備蓄しやすいものや日頃使っているものを備蓄している一方で、非常食や小物類は「何を、どのくらい」備えておけばいいのかがわからず、結果的に備蓄していないのではないかと考えられます。

2点目に、自治会へ加入している世帯ほど、家族内で非常時の連絡手段の確認をしているという結果を得ました。自治会への加入が防災意識の向上につながるという仮説をもとに分析を行いました。単純集計の結果、「地域の人々と交流を深められる」が36.9%、「災害時に助け合える」が45%となり、一概に「自治会へ所属しているから防災意識が高い」とは言えず、自治会へ加入し、コミュニティの中で情報交換を行った結果、家庭内での話し合いにつながるのではと考えました。また、自治会加入と非常食の備蓄についても同様のことが言えると考えられます。

3点目に、居住年数と防災サービスの認知には相関がないという結果が得られました。しかし、この仮説に関して地域住民の声として多くあがっていたものとして「サービスの利用方法がわからない」、「市の運用方法が適切ではない」といったものがありました（本調査自由記述一覧より）。また、市が行っている“防災まちづくり推進地区”の取り組みを知っている回答者は、全体の9.5%しかおらず、地域に長く住むことと市の取り組みへの認知は必ずしも一致しないという結果が得られました。ハザードマップの所有や防災サービスの利用に居住年数との関連はなく、防災サービスの認知や利用は個人個人の防災意識やメディア等の環境要因に大きく左右されることが考えられます。

5. おわりに

調査テーマを“防災”と定め、「地域住民の防災に関する意識調査」として東元町1丁目に住む皆様にご回答いただきました。調査概要でも申し上げた通り、はじめの調査計画では複数地区を調査対象として比較を行う予定でした。文献調査として国分寺市が行う防災に関する取り組みや災害が発生した際の対応や、これまでに「防災」をテーマとした調査文献をまとめあげ、質問票質問項目の検討を行っている最中に受講者人数が減少してしまいました。質問票配布や分析する際の負担を考えた結果、複数地区への調査は困難であり規模を縮小して調査を実施するという結論に至りました。改めて調査地区の選定や、複数地区が比較できなくなったことによる質問票の質問項目の検討を行うことになりました。その影響により、質問票配布時期が予定よりも遅れ、質問票が東元町1丁目の皆様に届いてから返信期日までの日数が短くなってしまいう事態が生じましたが、370通の回答を得ることができました。

本調査テーマは“防災”ですが、サブテーマとして“近隣の方との関わり”を掲げていました。これは2011年に発生した東日本大震災に関連して「絆」という言葉が頻繁に

メディアに取り上げられたことから、防災と人との関わりについて、興味深い関連性があるかという私たちの考えからです。自由回答で近隣の方との関わりに触れた記述もあり、災害が発生した際には近隣の方との助け合いは必要と感じている方は少なからず存在しています。いざという時には助け合いが必要であると考えているが、日常的に近隣の方との関わりがあるわけではないというのが現実のようです。自由回答の記述に関して、回答者の防災意識の変化や防災について考えるきっかけとなったとの記述もあり、私たちが調査を実施した意味があったと感じています。

最後になりますが、「地域住民の防災に関する意識調査」に回答して下さった東元町1丁目に住む皆様に、本調査が実現したことに感謝し、お礼申し上げます。ありがとうございました。

8. あなたは国分寺市が主催する防災訓練(国分寺市・国分寺消防署合同総合水防訓練、国分寺市総合防災訓練)に参加したことがありますか？

①はい(8-1 へ) ②いいえ(9 へ)

- 8-1 上記の 8 の質問で「①はい」に○をつけた人にお伺いします。どのような理由で防災訓練に参加したのですか？以下の項目から、あなたの意見に一番近いものをひとつ選び、その番号に○をつけてください。

①訓練対象地区に選ばれたから ②訓練を通して地域の人々と関係を深めたいから
 ③知人・友人に誘われたから ④災害や防災の基礎知識を得たいから
 ⑤その他()

9. あなたが普段から行っている防災備蓄についてお聞きします。総務省消防庁により推奨されている下記の防災用品 a~f のうち、**今現在の備蓄状況として当てはまるものを 1~4 の中からひとつ選び、その番号に○をつけてください。**

	人数分備蓄している	人数分はないが備蓄している	備えていない	わからない
a 飲料水(1人1日3ℓ)	1	2	3	4
b 非常食	1	2	3	4
c 衣類・防寒用品	1	2	3	4
	3~5日分備蓄している	1~3日分備蓄している	備えていない	わからない
d 医薬品(頓服薬含む)	1	2	3	4
e 懐中電灯・ろうそく	1	2	3	4
f 日用小物(軍手・タオルなど)	1	2	3	4

10. あなたは家庭内で以下のことについて話し合い、確認していますか？下記の項目で一番近いものに○をつけてください。

	確認している	話し合いはしてないが把握している	確認していない
a 避難所の場所	1	2	3
b 災害時の連絡手段	1 (問 10-1 へ)	2 (問 10-1 へ)	3 (問 11 へ)

- 10-1 上記 10 の質問の「b 災害時の連絡手段」について**回答の 1、2 を選んだ人にお伺いします。**災害時に家族とどのような手段で連絡をとりますか。下記の項目からひとつ選び、その番号に○をつけてください。

①携帯電話(通話) ②携帯電話(メール) ③固定電話
 ④インターネット(メール) ⑤SNS ⑥災害用伝言ダイヤル
 ⑦災害用伝言板 ⑧その他()

質問は裏面に続きます。裏面にお進みください。

地域住民の防災に関する意識調査

11. 国分寺市が実施している「防災無線ダイヤルイン」というサービスをご存知ですか？
※「防災無線ダイヤルイン」… 防災行政無線の内容を電話で確認できるサービス
- ①利用したことがある ②聞いたことがある ③知らない
12. 国分寺市が実施している「緊急速報メール」というサービスをご存知ですか？
※「緊急速報メール」… 回線混雑の影響を受けずに災害に関する情報を配信するサービス
- ①利用したことがある ②聞いたことがある ③知らない
13. 国分寺市が実施している「安心安全メール」というサービスをご存知ですか？
※「安心安全メール」… 災害・犯罪等の情報をメールで受け取ることができるサービス
- ①利用したことがある(現在も利用している) ②聞いたことがある ③知らない
14. 国分寺市が「Twitter」を利用して防災・防犯の情報発信を行っていることをご存知ですか？
※「Twitter」… 140文字以内の短文の投稿を共有するweb上の情報サービス
- ①利用したことがある(現在も利用している) ②聞いたことがある ③知らない
15. 国分寺市が作成した「防災ハザードマップ」をお持ちですか？
- ①持っている(問 15-1 へ) ②持っていない(問 16 へ) ③わからない(問 16 へ)
- 15-1 上記 15 の質問で「①持っている」に○をつけた方にお伺いします。あなたは家族と災害に備えて防災ハザードマップを使った話し合いをしたことがありますか？
- ①年に2回以上している ②年に一度するかしないか ③したことがない
④その他()
16. 国分寺市が行っている「防災まちづくり推進地区」という取り組みを知っていますか？
- ①知っている(問 16-1・16-2 へ) ②知らない(問 17 へ)
- 16-1 上記 16 の質問で「①知っている」に○をつけた方にお伺いします。今お住いの地域が、「防災まちづくり推進地区」に認定されているか、またはそうでないかを知っていますか？
- ①推進地区であると知っている ②推進地区ではないと知っている
③認定を受けているかわからない
- 16-2 上記 16 の質問で「①知っている」に○をつけた方にお伺いします。「防災まちづくり推進地区」が行う活動内容を知っていますか？
- ①知っている ②知らない

17. あなたは今お住いになっている地域の町内会・自治会に加入していますか？

- ①加入している(問 17-1 へ) ②加入していない(問 17-2 へ) ③わからない(問 18 へ)

17-1 **上記 17 の質問で「①加入している」を選んだ人にお伺いします。**町内会・自治会に加入している理由について下記の項目からあなたの意見に一番近いものをひとつ選び、その番号に○をつけてください。

- ①地域の人々と交流を深められるから ②地域の活性化に貢献したいから
 ③災害時に助け合えるから ④入居の際に加入が義務付けられている
 ⑤特に理由はない ⑥その他()

17-2 **上記 17 の質問で「②加入していない」を選んだ人にお伺いします。**町内会・自治会に加入していない理由について下記の項目からあなたの意見に一番近いものをひとつ選び、その番号に○をつけてください。

- ①会費を払いたくないから ②集会に参加したくないから
 ③人付き合いが面倒だから ④高齢などの理由で集会に参加できないから
 ⑤特に理由はない ⑥その他()

18. あなたは地域のどのような活動に参加していますか。次のa~dのそれぞれについて、下記の1~4の中から当てはまるものをひとつ選び、その番号に○をつけてください。

	あてはまる	どちらかといえばあてはまる	どちらかといえばあてはまらない	あてはまらない
a 地域行事(お祭り、盆踊りなど)	1	2	3	4
b 清掃・美化活動(公園の掃除、植樹など)	1	2	3	4
c ボランティア活動(高齢者家庭や施設訪問など)	1	2	3	4
d 青少年育成活動(少年野球や子供会など)	1	2	3	4

19. あなたは、近隣に次のような方がいらっしゃいますか。次のa~eのそれぞれについて、下記の1~2の中から当てはまるものをひとつ選び、その番号に○をつけてください。

	いる	いない
a あいさつ程度の最小限のつきあいをする人	1	2
b 庭先や道端で会うと立ち話をする人	1	2
c おすそ分けをしあう人	1	2
d 互いにこの家に訪問しあう人	1	2
e よく一緒に外食するような関係の人	1	2

市の防災活動について、お考えをご自由にお書きください。

以上で終了になります。ご協力頂き、ありがとうございました。

地域住民の防災に関する意識調査

6-2 本調査単純集計結果

0. 回答者分類

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	家族の中で次の誕生日を最初に迎える18歳以上の方	181	48.9
2	それ以外の18歳以上の方	164	44.3
3	18歳未満の方	2	0.5
4	無回答、非該当	23	6.3
合計		370	100.0

1. 性別

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	男性	172	46.5
2	女性	192	51.9
3	無回答、非該当	6	1.6
合計		370	100.0

2. 年代

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	19歳以下	5	1.4
2	20代	38	10.3
3	30代	48	13.0
4	40代	37	10.0
5	50代	56	15.1
6	60代	65	17.6
7	70代	71	19.2
8	80代以上	49	13.2
9	無回答、非該当	1	0.2
合計		370	100.0

3. 居住形態

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	一戸建て(持ち家)	240	64.9
2	一戸建て(貸し家)	12	3.2
3	マンション・アパート(持ち家)	9	2.4
4	マンション・アパート(貸し家)	99	26.8
5	公営住宅	4	1.2
6	社宅・寮	2	0.5
7	その他	2	0.5
8	無回答、非該当	2	0.5
合計		370	100.0

4. 家族人数

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	1人(単身世帯)	127	34.3
2	2人	112	30.3
3	3人	73	19.7
4	4人	37	10.0
5	5人	11	3.0
6	6人	4	1.1
7	7人	2	0.5
8	無回答、非該当	4	1.1
合計		370	100.0

5. 居住年数

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	5年未満	97	26.2
2	5年以上 10年未満	39	10.5
3	10年以上 15年未満	40	10.8
4	15年以上 20年未満	24	6.5
5	20年以上 30年未満	45	12.2
6	30年以上 40年未満	49	13.2
7	40年以上	75	20.3
8	無回答、非該当	1	0.3
合計		370	100.0

6. 職業

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	会社員	85	23
2	自営業	19	5.1
3	公務員	5	1.4
4	主婦・主夫	109	29.5
5	専門職	19	5.1
6	学生	11	3.0
7	フリーター	10	2.7
8	無職	94	25.4
9	その他	16	4.3
10	無回答、非該当	2	0.5
合計		370	100.0

地域住民の防災に関する意識調査

7. 家具の転倒防止対策

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	ほとんどの家具に実施済み	52	14.1
2	半数程度の家具に実施済み	101	27.3
3	ほとんど実施していない	118	31.9
4	検討はしているが実施はしていない	40	10.8
5	検討していない	41	11.1
6	その他	14	3.8
7	無回答、非該当	4	1.0
合計		370	100.0

8. 防災訓練への参加有無

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	はい	50	13.5
2	いいえ	317	85.7
3	無回答、非該当	3	0.8
合計		370	100.0

8-1. 防災訓練参加理由

(※Q8で選択肢①を選択した度数のみ対象)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	訓練対象地区に選ばれたから	5	10.0
2	訓練を通して地域の人々と関係を深めたいから	5	10.0
3	知人・友人に誘われたから	6	12.0
4	災害や防災の基礎知識を得たいから	19	38.0
5	その他	14	28.0
6	無回答、非該当	1	2.0
合計		50	100.0

9a. 飲料水の備蓄状況

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	人数分備蓄している	134	36.2
2	人数分はないが備蓄している	107	28.9
3	備えていない	119	32.2
4	わからない	4	1.1
5	無回答、非該当	6	1.6
合計		370	100.0

9b. 非常食の備蓄状況

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	人数分備蓄している	104	28.1
2	人数分はないが備蓄している	115	31.1
3	備えていない	138	37.3
4	わからない	5	1.4
5	無回答、非該当	8	2.1
合計		370	100.0

9c. 衣類・防寒用品の備蓄状況

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	人数分備蓄している	119	32.2
2	人数分はないが備蓄している	73	19.7
3	備えていない	155	41.9
4	わからない	6	1.6
5	無回答、非該当	17	4.6
合計		370	100.0

9d. 医薬品の備蓄状況

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	3～5日分は備蓄している	103	27.8
2	1～3日分は備蓄している	100	27.0
3	備えていない	150	40.5
4	わからない	4	1.1
5	無回答、非該当	13	3.6
合計		370	100.0

9e. 懐中電灯・ろうそくの備蓄状況

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	3～5日分は備蓄している	170	45.9
2	1～3日分は備蓄している	133	35.9
3	備えていない	57	15.4
4	わからない	3	0.8
5	無回答、非該当	7	2.0
合計		370	100.0

地域住民の防災に関する意識調査

9f. 日用小物の備蓄状況

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	3～5 日分は備蓄している	163	44.1
2	1～3 日分は備蓄している	112	30.3
3	備えていない	81	21.9
4	わからない	5	1.4
5	無回答、非該当	9	2.3
合計		370	100.0

10a. 避難所の場所

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	確認している	167	45.1
2	話し合いはしていないが把握している	95	25.7
3	確認していない	104	28.1
4	無回答、非該当	4	1.1
合計		370	100.0

10b. 災害時の連絡手段

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	確認している	71	19.2
2	話し合いはしていないが把握している	67	18.1
3	確認していない	132	35.7
4	無回答、非該当	100	27.0
合計		370	100.0

10-1. 災害時の連絡手段の種類

(※Q10b で選択肢①, ②を選択した度数のみ対象)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	携帯電話(通話)	41	29.7
2	携帯電話	34	24.6
3	固定電話	3	2.1
4	インターネット(メール)	3	2.1
5	SNS	12	8.6
6	災害用伝言ダイヤル	21	15.2
7	災害用伝言板	6	4.3
8	その他	6	4.3
	無回答、非該当	12	9.1
合計		138	100.0

11. 防災無線ダイヤルインについて

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	利用したことがある	3	0.8
2	聞いたことがある	65	17.6
3	知らない	296	80.0
4	無回答、非該当	6	1.6
合計		370	100.0

12. 緊急速報メールについて

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	利用したことがある	18	4.9
2	聞いたことがある	85	23.0
3	知らない	261	70.5
4	無回答、非該当	6	1.6
合計		370	100.0

13. 安心安全メールについて

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	利用したことがある(現在も利用している)	56	15.1
2	聞いたことがある	59	15.7
3	知らない	251	67.8
4	無回答、非該当	4	1.4
合計		370	100.0

14. Twitter について(防災関連での利用)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	利用したことがある(現在も利用している)	11	3.0
2	聞いたことがある	45	12.2
3	知らない	310	83.8
4	無回答、非該当	4	1.0
合計		370	100.0

15. 防災ハザードマップを持っているか

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	持っている	188	50.8
2	持っていない	83	22.4
3	わからない	94	25.4
4	無回答、非該当	5	1.4
合計		370	100.0

地域住民の防災に関する意識調査

15-1. 防災ハザードマップを利用して話し合っているか
(※Q15 で選択肢①を選択した度数のみ対象)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	年に2回以上はしている	5	3.7
2	年に1度するかしないか	46	24.4
3	したことがない	135	71.8
4	その他	1	0.05
5	無回答、非該当	1	0.05
合計		188	100.0

16. 防災まちづくり推進地区を知っているか

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	知っている	35	9.5
2	知らない	323	87.3
3	無回答、非該当	12	3.2
合計		370	100.0

16-1. 現在住んでいる地区が「防災まちづくり推進地区」に認定されているかどうかの認知
(※Q16 で選択肢①を選択した度数のみ)対象

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	推進地区であること知っている	4	11.4
2	推進地区ではないことを知っている	8	22.8
3	認定を受けているかわからない	23	65.8
4	無回答、非該当	0	0.0
合計		35	100.0

16-2. 防災まちづくり推進地区の活動内容を知っているか
(※Q16 で選択肢①を選択した度数のみ)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	知っている	11	31.4
2	知らない	21	60.0
3	無回答、非該当	3	8.6
合計		35	100.0

17. 自治会・町内会への加入有無

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	加入している	246	66.5
2	加入していない	111	30
3	わからない	12	3.2
4	無回答、非該当	1	0.3
合計		370	100.0

17-1. 自治会・町内会に加入している理由

(※Q17で選択肢①を選択した度数のみ対象)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	地域の人々と交流を深められるから	91	36.9
2	地域の活性化に貢献したいから	18	7.5
3	災害時に助け合えるから	11	4.5
4	入居の際に加入が義務付けられている	48	19.5
5	特に理由はない	61	24.7
6	その他	14	5.7
7	無回答、非該当	3	1.2
合計		246	100.0

17-2. 自治会・町内会に加入していない理由

(※Q17で選択肢②を選択した度数のみ対象)

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	会費を払いたくないから	4	3.6
2	集会に参加したくないから	6	5.4
3	人付き合いが面倒だから	6	5.4
4	高齢などの理由で参加できないから	6	5.4
5	特に理由はない	61	54.9
6	その他	26	23.5
7	無回答、非該当	2	1.8
合計		111	100.0

18a. お祭り、盆踊りなどの行事への参加

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	あてはまる	58	15.7
2	どちらかといえばあてはまる	60	16.2
3	どちらかといえばあてはまらない	46	12.4
4	あてはまらない	178	48.1
5	無回答、非該当	28	7.6
合計		370	100.0

地域住民の防災に関する意識調査

18b. 公園の掃除、花を植えるなどの清掃・美化活動への参加

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	あてはまる	21	5.7
2	どちらかといえばあてはまる	17	4.6
3	どちらかといえばあてはまらない	52	14.1
4	あてはまらない	246	66.5
5	無回答、非該当	34	9.1
合計		370	100.0

18c. お年寄りの家庭や施設でのボランティア活動への参加

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	あてはまる	16	4.3
2	どちらかといえばあてはまる	12	3.2
3	どちらかといえばあてはまらない	31	8.4
4	あてはまらない	271	73.2
5	無回答、非該当	40	10.9
合計		370	100.0

18d. 少年野球や子供会などの青少年育成活動への参加

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	あてはまる	15	4.1
2	どちらかといえばあてはまる	11	3.0
3	どちらかといえばあてはまらない	35	9.5
4	あてはまらない	269	72.7
5	無回答、非該当	40	10.7
合計		370	100.0

19a. 近隣にあいさつ程度の最小限のつきあいをする人がいるか

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	いる	314	84.9
2	いない	42	11.4
3	無回答、非該当	14	3.7
合計		370	100.0

19b. 庭先や道端で会うと立ち話をする人がいるか

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	いる	236	63.8
2	いない	114	30.8
3	無回答、非該当	20	5.4
合計		370	100.0

19c. おすそ分けをしあう人がいるか

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	いる	176	47.6
2	いない	171	46.2
3	無回答、非該当	23	6.2
合計		370	100.0

19d. 互いの家に訪問しあう人がいるか

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	いる	82	22.2
2	いない	257	69.5
3	無回答、非該当	31	8.3
合計		370	100.0

19e. よく外食を一緒にするような関係の人がいるか

値	質問内容	度数	相対度数(%)
1	いる	59	15.9
2	いない	279	75.4
3	無回答、非該当	32	8.7
合計		370	100.0

20. 自由記述(※別途記載)

6-3 本調査自由記述

自由記述をまとめ、項目ごとに分けました。句読点の有無を含め、文章表現自体の修正は行わず、全て原文ママで掲載しています。各項目の設定と分類は調査員1名が行いました。

【国分寺市および地域が実施する防災への取り組みに関して】

▼防災（災害）情報サービスに関する意見

- ・広報が不足していると思います。
- ・市の防災にかかる広報が上手でなく、少い。
- ・広報活動があまり活発でないと感じる
- ・行政として防災意識が高いように見受けられない。積極的な広報活動や地域住民へのアナウンスが必要なのではないかと考えます。
- ・何かしらやっているのはわかるがアピールが足りないもしくは地味すぎ。今年、東京都が実施した防災冊子（しかもよくできてる）の配布のような、ハデなアピールをしないと役に立たず結局税金のムダということになってしまう
- ・メールや Twitter はツールを持っているか否かで安全対策に差がでてしまう スマホでないので災害時の情報に不安がある
- ・もっと市が積極的にこれらの事業、活動を推進すべきであると思う。
- ・取り組みは多いようだがあまり伝わっていない
- ・防災ハザードマップ以外のことはほとんど知らない。
- ・パソコンもスマホも使っていないので、Twitter を利用出来ない。防災ハザードマップは20年発行の防災情報地図で我家の場所を確認している。
- ・市役所や公民館が駅から遠く、生活導線上にないのが不安。インターネットをやらないと何のサービスも受けられない。
- ・私の住む東元町の地盤がどの位の堅牢さが有るか、直下型地震でどの程度もちこたえられるか知りたい。
- ・国分寺は井戸を持っている人が多いと聞きましたか？ 市で公開していざという時に利用できるようにして欲しい。
- ・市の活動は知らないです。近所に知り合いもいないので、家族が自宅で1週間過ごせる用意を意識しています。そのあとは千葉の実家に避難する計画です。
- ・どの程度備蓄すればいいか目に見てわかるような展示があると良い
- ・都の防災マップなら持っているが字が小さいのであまり役に立ちそうにない。

▼防災（災害）情報サービスに関する要望

- ・知らない私が悪いのか、そんな人を作っている市が悪いのか、もっと工夫をして市民全員

が知るように市に努力して欲しい

- ・周知方法を改善してほしい
- ・⑪⑫⑬⑭について詳しい情報が欲しい
- ・15, 16 を何かで見たことはあるが, 知らないと言ったほうが正しい 防災グッズのリストは作ったが備えていない, 防災グッズの保管場所メンテナンスの仕方など公報で(原文ママ) 知らせて欲しい
- ・防災無線ダイヤルイン, 緊急速報メール安全安心メール等どの様にしたら使えるのかおしえて下さい
- ・携帯はガラケです。情報を伝達するスマホ等の使い方を知りません。本当に必要であれば購入しますが最底の機器をわかり易く紹介してほしい。
- ・問 11~14 は, まったく知りませんでした。もっと周知して下さい。国分寺市はそれなりにとても高い税金を市民から頂いているのに, 還元されていない。問 8 について, 大規模単発ではなく, 小規模多発にしてほしい。消火器, 火災探知器くらい頂けませんかね。
- ・防災訓練の実施内容をもっと広く知らしめてほしいです(予告など)
- ・活動内容などポイントとなる事を自治会などの掲示板を利用して地域の方々に周知させるなど工夫しては如何でしょうか。防災無線は聞こえないので, 高齢者にも聞こえるよう工夫が必要。
- ・災害発生時, 「〇〇町の人へ〇〇小学校へ」と云うような, 具体的な放送, 周知を願います。
- ・老人, 独居老人に対する防災・防犯の情報配信。
- ・市の防災活動について, 度々報告を受けますが, 現在 2 人とも持病があり, 全く参加できず, 市報・町内の回覧板で確認はしております。参加できない者には, 良く理解できるように, 文書で説明してほしいです。
- ・市や地域の防災活動に私が疎いのは, 市報や回覧板をちゃんと読まないからだと思っています。近年, 回覧板を回すのがめんどくさいという理由で, 2 世帯が町内会(自治会)を抜けてしまいました。母世代(70 歳以上)との情報の取得の仕方が違うので, 回覧板を廃止することが出来ないのでしょうか。市報だけではだめなのでしょうか。市, 地域は防災活動を良く活発にやっているといます。とても感謝しています。ただ一つ回覧板は若世代に不人気です。ツイッターではなく, メール配信がいいです。
- ・いつ, どこで災害を受けるかわからない。従って防災への自助努力が重要であるが要介護者など障害のある居住世帯について市や自治体でどこまで支援にももらえるのか明らかにしてほしい。具体的に!!
- ・お年寄りなど, インターネットのわからない人たちに便利さやよさを教えることにより, 防災時のしゅうち方法がふえるのではないか。

地域住民の防災に関する意識調査

- ・たまに、平安神社の公かいどうで、防災についての話があるので、これからも、やってもらいたいです。(原文ママ)

▼国分寺市や地域が行う防災活動への要望

- ・小学校地区の細やかで活動をしてもらいたいと思います。それともし今災害が起きたら…その時市はどこまで補償可能なのか教えてほしい。それにより準備が見えてくるから。
- ・市広報やホームページだけでなく、多くの市民が知る機会とともに、参加できる機会を多くしてほしい。
- ・市から防災用品を配布してほしい
- ・国分寺地区における防災は、やはり直下地震が一番懸念される！ 行政にはイザという時の消防・レスキュー体制の充実をお願いしたい。
- ・ある程度行政による強制力のある取り組みも必要になる場面もでてくると思われるが、そのための合意、同意を得るための日常の提案を丁寧にやっていただきたい。

▼道路設備などに関する意見・要望

- ・野川の近くに住んでいるので、豪雨の際の浸水対策を万全にして欲しい。15年前に前線の影響による豪雨で床下浸水した地域です。
- ・国分寺街道を早く広くしていただきたいです。
街角で上空を見ると電線が無数に混同している。降りかかる危険を感じている
- ・自宅前の道中を緊急車両対応の為に拡張する話があったような気がしますが、頓挫しているようですね。やはり、宅地を一部提供することは各自の立場上むずかしい話です。でも、ブロック塀が存続しないことはいい決定事項です。
- ・東元町の1丁目と2丁目の地下5mか6m位に大きなトンネルがあり、道路と住宅地が陥没した。それを見て子供が心配です。「壁抗」が道の各地にあり、市はその上にマンジュウ型に舗装している。私の前の道は私と市のみち、沈んで電柱が曲がり取り替えて2年が過ぎました。道路の陥没を見た人々も10年もたつと忘れがち。当時はK氏が申し入れたが市は不安を与えると説明なし。K氏は別のところへ移った。市は防災に取り入るべき。
- ・地域の道路面に合う消火器などが用意してほしいです
- ・元町街道～東本町1丁目～長谷戸橋の道路について、消防車等が野川側から入れるよう野川の一部暗等を検討していただきたい。
- ・この地域は風水害はほとんどなく、良い地域と考えています。地震については運、不運が大きいと思いますが？
- ・私の住居の回りは道路がせまく、又袋小路も多く火災時の消防自動車の到着が非常に心配

である。

- ・ソフト面で様々な工夫をしているとは思いますが、もっと根本的な防災対策をして欲しい。金銭面、法律的な制約や住人との交渉時間もかかると思うが、道路の拡幅や区画の整理を進めてもらいたい。

▼防災無線に関して

- ・市の防災無線の事ですが、声がわれてしまい聞きとりにくい。
- ・巡回車で防災の放送をしているが、アナウンスの放送が適切でない。ゆっくりした言い回しは返って聞きづらいし、こだまして何を言っているのか内容が聞き取れない。どういう聞こえ方をしているかご存知ないと思う。車から下りて、聞く方の身になって一度でも体験したことがおありでしょうか？ 車で
- ・巡回放送は何の役にも立っていません。方法を変えない限り無駄です。
- ・市がスピーカーなどで流す情報が、すべて聞き取れてはいない。もっとすぐわかるような音声で流してほしい。なにかあったらすぐ耳に入るようになるといいなと思う。

▼防災訓練に関して

- ・自治会での防災訓練は意義があると思います。(地区長、組長は特に参加することが多いので勉強になる。)
- ・自治体が積極的に防災について取り組んでいることにありがたいと評価しております。自分としては防災については、あくまで本人の自助が最も大切だと思っています。他助があれば良いとは思っていますが…。
- ・一度経験したことがある流れと全く経験がない流れは全く異なると思うので会社のビルで強制的に年一回の避難訓練が行われるのは、有効だと思う。同様に町内でも強制的な訓練を行うと実際の時に必ず役に立つと思う。
- ・公民館や公会堂などで消防・警察の人たちが来て行われる防災訓練や講習会などに参加しとても参考になり役に立っている。もっと多くの地域の人たちが参加すればいいのと思う。
- ・出来たら参加したが、時間が無い。
- ・東元町 1-1 のところの周りはお年よりの多いのに避難場所が遠すぎます。

【災害が発生した際に関して】

- ・防災の日などの活動は、市報など（サイレンがる）わかってはいますが……子供がいないので……一度も参加したことはありません。町内会には入ってますが、2世帯で1Fに親世帯がいるので、そちらが町内・老人会など、地域にいろいろ参加しえいる為、話を聞く

地域住民の防災に関する意識調査

だけです。私みたいな人達は多いのではないのでしょうか？ 近所は、年齢が高く（高齢者が多い）、災害があった時が不安です。（高齢者だけの人が多い為）*乱筆・乱文ですいません。

- ・地震後の火事が心配です。その為の対応を具体的に自治会等で決めておく必要があると思います。
- ・災害があるたびにメディアを通して見聞きすることに対して家族で話し合い、対策を考えるが、実際災害にあった時にはどうなるかわからないし、たぶんオロオロすると思う。
- ・ひとり暮らしで不安はないとは言えないが何とか切り抜けられる。
- ・正常化の偏見などから対策していない人も多く、また国や市の対策も不十分だと感じる。

【近隣の方とのかかわりについて】

- ・この土地に長く住んでいて、戸建ての住居に住んでいる方達は情報はいっているでしょうけど一人暮らしで、ましてアパート暮らしの者は、付き合う機会もないし、たまに外に出ても知らない方とは、あいさつもお話もできません。だいたいがそんな様なものじゃないですか
- ・府中市新町との境界に位置する為、実際に災害が起きた時、お向かいの新町の人と助けあう方が实际的と思う。東京都と国分寺市の地方（Region）の考え方も必要と思う。
- ・緊急の場合、市の救護活動に期待しても無理です（不可能）。ご近所の“助け合い”が何より重要であると考えています。（阪神大震災の事例を見ても丁然としている）原文まま
- ・高齢者の多い地区で、昔から近所つきあいのある人と、新しく来た人とはつきあいづらい面をもっています。生活スタイルの違いもあり、新しい人は町内会には入らない人も多いです。長く住んでいる人は流れのまま世代が変わっても近所つきあいができるので人となりも多少わかりますが、新しい人はたとえおとなりさんでもなかなか近所つきあいや助け合いにつながる関係になりにくい。災害の時は、自分の家だけでいっぱいになりそうです。東北のときも実際、なにもできなかったのも、もしも……の意識だけはしておこうと思います。
- ・地域的に高齢化しているようだが、大学生や駅に近いので子育て中の家庭も多い。知らない人同士が声をかけあうことは全くないのではないかと思う。年代や暮らし方を超え交流できるような日常的なつながりができればいいと思う。
- ・非常時市に頼るより近所の人と助け合うしかないと思う
- ・自治会ベースで交流を深めるような取り組みが良い。東元町は（学生用）アパートが多いせいか、近所に関心が薄い気がする。

【回答者の防災意識に関して】

- ・防災訓練があれば参加したいと思っております！ 人と人の関わりあいを大切にしたい。あいさつをしても返事もしてくれないからこそ。still much more so be it! 調査票送って頂いてありがとうございます。いつでも又、お役に立ちたいと考えております。がんばって下さい！
- ・小さい子供がいるので、よく備え、相談すべきと改めて感じました。良い機会をありがとうございました。
- ・この調査により防災意識をもっと持つ必要があると感じた。
- ・災害対策に非常に無関心なことがわかりました。ただし耐震工事はしっかりやっております。頼りにするだけでなく、こちらがしっかりしなければ、と思っています。
- ・市からの情報を注意して受け取っていなかったことが、この調査でよくわかった。
- ・このような機会を頂き、防災についての認識がないのに気付きました。改めて家族とも話し合い、防災について備えようと思います。市が実施しているものも、もっと住民にアピールしてほしいです。ありがとうございます。
- ・勉強になりました。防災無線ダイヤルインを利用してみます。
- ・自分自身の意識が低いので、市報などで知識を深め、準備も必要だと思いました。
- ・11月末に他県から引越してきたばかりなのでこのような体制があることが分かり、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・自分が近所付き合いがないのだなあと思いました。おそらく私のようなサラリーマンはたくさんいますが、アンケートに回答しない、もしくは国分寺のローカルな情報はまず入ってこないで、おのずと防災の意識も低いのではないのでしょうか。ゼミや、卒論のためのアンケートかもしれませんが、東経大の学生が地域の人をつなぐ架け橋となるのはいかがでしょうか？ そうすれば、居酒屋とかで知らない人におごってもらえたりするかも（かんしゃされて）
- ・転居してきてまだまがないので国分寺市で実施しているさまざまなサービスを知ることからはじめたいと思います
- ・一軒家が多いので火災の対策をしたい。
- ・11～16の質問は、聞いたことがあるけれど、確かな情報として利用できる状態にないことに、本アンケートを回答するなかで気づくことができました。ありがとうございました。
- ・意識調査を見て、もっと防災に関心を持たなければいけない事がよくわかりました
- ・努力していると思います。
- ・現在仕事で時間的余裕がないが出来ることはと心掛けています。
- ・自宅が別のところにあり、そちらの活動についてはチェックをしているが国分寺市については配られている市報をみて「ふう～ん」と思う程度

地域住民の防災に関する意識調査

【回答者の防災に関する取り組みに関して】

- ・防災活動については特に活動してません。しかし家を建てる時の建築確認が全く出来てない。基準に則った建物は防災の最低限度の役目があるのではないかと。
- ・私は国分寺市東元町1丁目在住ですが、役員初め、皆様が防災、その他の行事に、大変熱心で心強く思います。
- ・行政市は広報（月一回）に載せたら、消防、警察は町会の（一枚の印刷紙）した
- ・夜7：30～火の用心
- ・市の防災推進委員をしています。
- ・本人より家内のほうが活動しているので任せている形
- ・当方2人とも“社会的弱者”の高齢者故“大災害時”は今の所で終末を迎える覚悟をしております。

【本調査に関して】

- ・国分寺市の防災活動については啓蒙という点において、やや消極的な印象がある。こうした調査をとおして改善できればと思う。大変有意義な調査だと存じます。自分を客観的に確認することで自治体への関心が低いことを反省しました。調査の継続を希望します。
- ・たまたまですが、私も東経大コミュニケーション学部卒です。私はみなさんのように真面目に勉強していませんでしたが、とても楽しい4年間を送りました。みなさんも最高の大学生活にして、社会に出てください！

【その他（分類が困難だったもの）】

- ・恥ずかしながら、
- ・いいと思うが、時間がない
- ・アパート住まいで町内会自治会に入会していないから…？